

土木の日のイベント報告

～科学体験フェスティバル「身の回りの土木技術にふれてみよう」～

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 渡邊 健

「土木の日」のイベントとして、多くの子供が来場し、実験を通じて土木技術を体験することにより土木に対する関心や興味を高めることを目的として、科学体験フェスティバル（徳島大学工学部主催）へブースを出展すること致しました。この科学体験フェスティバルは毎年8月上旬に開催され（2008年は8月9日、10日に開催、2009年は、8月8日、）9日に開催予定）、2日間で約8000人近くの子供達の来場が見込まれるイベントです。

ブース展示に際しては、建設工学科の各研究室の4年生から学生委員を選出し、活動を開始致しました。学生委員の意見により内容を「アーチを組み立てて渡る実験」と「建設機械のラジコンの操作体験」として、ブースの名称を「身の回りの土木技術にふれてみよう」と決定しました。

「アーチを組み立てて渡る実験」では、アーチを形成するブロックを、建設用のコンパネを用いて作製し、組み合わせてアーチとしました。アーチは大小2つ作製しました。当日は、学生委員が補助をしながら子供達が組み立て、組み立て後にアーチの上に立つという流れで実験を行いました。子供達は組み立てたアーチを渡る際に、最初は怖そうにしているのですが渡れた時の笑顔がとても印象的でした。また、保護者の方もアーチの仕組みに驚かされていました（写真－1）。

「建設機械のラジコンの操作体験」では、パワーショベルのラジコンを操作し、3つのコースから1つを選択しコースで走らせた後に、プラスチックのカプセルを取り、取ったものに依じて景品をプレゼントしました。当日は、受付を設け、受付後にヘルメットを建設機械のラジコンと写真を撮影し、ラジコン操作後に写真と景品をプレゼントするという流れでおこないました。子供達は夢中でラジコンを操作し、カプセルをとっていました。小学生未満の子供達にはラジコンの操作が難しかったようですが、学生委員の補助のおかげでみんなが楽しめるものとなりました（写真－2）。

学生委員の頑張りにより非常に盛会の内に終了して、2日間で約200人の子供達が来場しました。11月18日の「土木の日」とは時期がずれたイベントとなりましたが、土木に対する関心や興味を充分高められたと感じております。



写真－1 アーチの組み立ての様子



写真－2 ラジコン操作の様子